


平成 25 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから6ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、すべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は四題で、6ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

一 次の文章は、文学作品について評論を書いてきた筆者が、小説を書き始めたころのことを振り返って書いたものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

小説を書き始めてまず突き当たった壁は、評論という形式に馴染んだための、事物の抽象的な処理、非具体的な処理であった。心を動かされた作品と対合い、なぜ感動したのかを問うてみる。事を分析帰納しながら一般化できる共通項を引き出し、敷衍してゆく作業は、当然のこととして、言葉による明確な結論を自分に要求する。時によっては、結論としての言葉あるいは文章が先に立ち、それを客観的に証明しようとして論理的な作業をひたすら重ねてゆく。

感動の抛り所を分析帰納して、少しでも論理的に把握したい評論への欲望と、感動の抛り所を分散拡大して、更に強調したい小説への欲望、この二種類の欲望は、どうやら自分の中には矛盾なく生きていくらしい。今更言い立てるのも気がひけるようなことながら、小説で必要なのは事物の具体的な表現であって、抽象的な論評でもなければ概念的な記述でもない。なぜこの作品を書いたかという、作者の直接の言葉は不要であり、結論は、作者が提示した具体的な事物を通じて読者にゆだねればよい。しかし習慣は恐ろしい。結論めいた文章を書かない不安と私は長く争うことになる。

小説を書くこうとしながら、評論では許される抽象的、概念的な物言いに無意識のうちに逃れている自分に気づくと、一時的にもせよ筆は止まってしまう。分散拡大のために必要な事物の具体的な表現といっても、背後で統一するのは理性なので、感受性の単なる羅列というわけにはゆかず、具体的な事物の小さな一つ一つといえども理性の関る秩序の外には放り出せないが、自然の勢いで書き進めるものが具体的なならうちは、作品に弾力は伴わない。

もともと、抽象は具象に始まっているはずで、具象はなおざりにした抽象に説得力を望んでもそれは無理である。具象といい加減に馴れ合った抽象に胡坐をかいているととんだところで仕返しをされる。抽象に逃げるな、

と自分を叱り続けて小説を書いていると、日頃いかに物の見方が杜撰であるかがよく分かる。見ているつもり、聞いているつもりでは小説は一行も進まない。小説を書く基礎になるのは、日常、事物を杜撰にではなく「見る」習慣、「見る」力だと知らされる。そこから事物の選択と再構成が始まる。

評論では抽象的、概念的な物言いが許されると言ったが、事物を杜撰にではなく「見る」習慣、「見る」力の必要については、小説の場合と全く同じだと考えている。個々の作品も山川草木と対等な事実であって、具象としての文章をいい加減にではなく「見る」力の必要は、読みの誤りから遠ざかる条件でもある。

評論への衝動にも小説への衝動にも、私の場合、その根には必ず感動がある。心の揺れがある。それが無い所ではどちらも成り立ちが難しい。ただ、小説を書き出してから、評論を書いていた自分がそれ以前よりもいらかはつきり見えてきた。勿論その欠点を含めて。と同時に、テキストの読みの粗雑な評論、あるいは研究の類に、強い疑問を抱くようになった。読みには段階がある。そのほどにはほとんど限りがない。それは、日常、自分の環境の事物を見る、その見方のほどに限りがないと本質的には違っていないと思う。自分のかつてのいくつかの評論がそうであったように、読みの粗雑な評論には説得力が伴わず、とかく声が高い。小説を書くことを知った私が自分の評論に求めるようになったのは、出来るだけ具体的な平明な言葉で、事物としての文章の分析帰納を行うこと。事物としてのテキストの読みが、文章に即して謙虚であり、杜撰でさえなければ、具体的かつ平明な言葉での客観化は不可能ではないであろうし、説得力、普遍の力をもつ論述は可能のはずだということである。

(注) 竹西寛子『見る』に始まる

(注) 帰納——具体的な事実から一般的な法則を導き出すこと。

敷衍——ここでは、ある作品について言えることを、他の作品に当てはめて考えること。

具象——具体。「抽象」の対義語。

杜撰——いい加減なこと。

テキスト——ここでは、文学作品の本文のこと。

問一 傍線部①・④・⑥・⑨の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部ア～エの中で、はたらきの異なるものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

問三 波線部A～Eは、「評論」について述べたもの四つと、「小説」について述べたもの一つに分けることができる。「小説」について述べたものを選んで、その符号を書きなさい。

問四 傍線部②において、筆者は何を「恐ろしい」と言っているのか。それについて説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、a は十字、b は十字以上十五字以内のこととする。

小説においては、具体的な事物を通じて結論は が、評論を書き慣れている筆者にとって、結論めいた文章を書かないことは不安であり、抽象的な言葉を用いて書くことに ことがあるということ。

問五 傍線部③を言いかえたものとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 一時的ではなくて イ 一時的であったとしても
ウ 一時的であるから エ 一時的であつてはならず

問六 傍線部⑤はどのような心の状態を言っているか。その説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 具体的な事物を的確に表現する方法が思いつかず、やむをえず使
い古された抽象的な表現に頼ってしまい、くやしがつている状態。

イ 具体的な事物についての自分の理解が十分でないのに、抽象的な表現を使つても読者に伝わりにくいと思ひ、不安になつている状態。

ウ 具体的な事物を見ているつもりになつて、安易に抽象的な表現を使つて言い尽くせたと思ひ込んで、満足している状態。

エ 具体的な事物を一般化して表現したいが、自分が使い慣れた抽象的な表現では言い表せるはずがないと感じ、開き直つている状態。

問七 傍線部⑦について、筆者にとって「評論」や「小説」を書こうとする衝動の根本にある「感動」は、何に対する「感動」か。適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 事物の非具体的な処理 イ 事物の選択と再構成
ウ 個々の作品や山川草木 エ 自分のかつてのいくつかの評論

問八 傍線部⑧について、筆者が疑問を抱く「評論」や「研究」にはどのような特徴があるか。その説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 説得力の伴わない難解で抽象的な言葉をむやみに多用している。
イ 身近にある日常の事物にこだわり、事細かに描いている。

ウ 読者が読み違えないように、理解しやすい言葉で書いている。

エ 具体的な事物の一つ一つを観察して客観的に論じている。

問九 筆者は「小説」を書き始めて、「評論」に対しての考えがどうなつたか。それを述べたものとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 抽象的な言葉しか使つてこなかった欠点に気づき、論理に頼らず、自然の勢いにまかせて評論を書かなければいけないと痛感した。

イ 理性の果たす役割の限界に気づき、感じ取つたことを羅列することによつて、分かりやすい評論になるという自信を得た。

ウ 事物を見ることの大切さに気づき、具体的に平明な言葉を使つて普遍性のある評論を書くことができるという確信を得た。

エ 抽象的な言葉の大切さに改めて気づき、論理的な評論を書くことで、読者の読みの段階を引き上げようと決意した。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学三年生になった榊井は、陸上部の主将として駅伝の県大会出場を目指していた。ところが指導歴の長い満田先生が加瀬中学校に転勤し、経験のない上原先生が顧問となった。予選大会に向け、他のメンバーであるジロー・渡部・設楽・大田・俊介が調子を上げ中、本来の力が出ない榊井は自分を5区にしてエントリー（参加申込み）することを提案し大会当日を迎えた。

おれがアンカーを走ることになったのは、今日の朝だ。

「そうそう、エントリー変更したんだ」

競技場につくと、上原が突然言い出した。

「やっぱり榊井君を6区にした」

「どうして」とおれに、上原は「勝ちたいから」とあっさり言った。大会当日の朝、直前の変更だ。それなのに、衝撃を受けているのはおれだけのようで、みんなはすんなりと納得して、次の作業にかかっていた。

「おれ、貧血なんだ」

おれはテントを立て始めるみんなから離れて、上原に告げた。貧血という言葉を自分では使いたくなかったけど、上原に早く事情を理解して対応してもらわないといけない。

「そう言えばそんな感じだね」

「そんな感じだねって、わかってる？ ほら、インターバルしたって三本目あたりから足が上がってないし、いつも1キロあたりから速度が落ちてるだろう」

きつと上原は①ジタイの重要性がわかっていない。情でおれを最終走者にしようとしているのだ。でも、勝つためには②そういうドラマはいらない。おれはわかりやすく説明した。

「とにかく最後に力が出ない。一番大事な最後がどうしようもないんだ。最後はどうしたって競り合いになる。そこで勝てる力がない」

「で？」

上原は首をかしげて見せた。

「でって、おれには6区を③ツトめる力がないってこと」

「だから何なの？」

「だから何って、ちゃんとチームのこと考えてよ。ここまでやってきたんだ。おれは6区じゃなくてもいい。みんなが県大会に行くことが大事なんだ。おれが格好つけるためにすべてを④ダイナシにするわけにはいかない」

「なるほどね。榊井君、さわやかでかつこいと思おうよ」

上原は黙って聞いていたかと思うと、何の脈絡もないことを言い出した。

「なんだよそれ」

「榊井君さ、自分の深さ⑤三センチのところで勝負してるんだよ。だから、さわやかに見える。それだけしか開放しないで、生きていけるわけがないにね」

「それが駅伝と何の関係があるんだよ」

もうすぐ本番だというのに、どうして上原はこんなことを話しているんだ。あまりに無関係な話にも、おれはいらいらした。

「駅伝も一緒だよ。榊井君はチームのみんなに慕われてるし、榊井君もみんなのことちゃんと把握してる。みんなの走りも性格も状態もきちんとつかんでる。だけどさ」

上原はおれの顔をじっと見た。

「だけど？」

「だけど、榊井君は誰のこともわかってない。誰も榊井君に伝えられないんだよ。みんな一目置いてるからね。榊井君、本当にみんなに一目置かれちゃってるんだよ」

「だから何なんだよ」

走る直前に、上原はどうしてこんなことを言っているのだ。おれは⑥完全にうろたえていた。

「中学校のスポーツは技術以上に学ぶものがあるっていうの、今までぴんと来なかった。だけど、今はわかるんだ。榊井君がいるいる見せてくれたからだよ」

上原はおれに⑦微笑んだ。

「走れなくてもいい。私が、ううん、私たちが望んでるのはそんなことじゃ

ないから。でも、6区を走るのは榊井君だよ」

トラックは残り半分。幾多西中はおれと肩を並べたままついてくる。こいつに譲るわけにはいかない。もちろん、満田先生が顧問だからって、すぐ目の前にいる加瀬中にも渡せない。負けちゃいけない。最後までジローみたいに楽しむんだ。頭の中では渡部が吹くカヴァレリア何とかが響いている。

残り100メートル。酸素はどこにも回っていない。足も腕も身体中が痛い。心臓も尋常じゃなく高鳴っている。おれの肩にある襷は重い。設楽から大田へ、大田からジローへ、ジローから渡部へ、渡部から俊介へ。そしておれへと繋がれた襷。走っている時は一人だ。でも、おれを進ませているのは、おれだけじゃない。おれは設楽みたいに死にももの狂いで走った。大田のようにすべてをむき出しにしてくらいだった。

ゴールは目の前。信用して。俊介に伝えた言葉をトナえてみる。俊介がずっと見てくれてきた勢いのあるおれの走り。その走りをするんだ。ちぎれそうな身体だって、おれの走りをするんだ。おれは身体をとにかく前へ前へと押し出した。一歩分、たった一歩分、幾多西中よりおれは前に飛び出した。いける。このまま走りきるんだ。今日で終わりにはしない。アンカーは最終走者なんかじゃない。絶対に繋いでみせる。おれをみんなを次の場所へと。

(注) インターバル——ここでは、陸上競技の練習方法の一つ。

カヴァレリア何とか——吹奏楽部員でもある渡部がよく吹いていた、カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲。

問一 傍線部①・③・④・⑦の片仮名を漢字に改めなさい。

問二 空欄に入る適切なことばを、次のア〜エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 舌をまく
- イ 目を丸くする
- ウ 鼻にかける
- エ 歯をくいしばる

問三 傍線部②について、榊井はどういうことを「ドラマ」だととらえているのか。それについて説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なこ

とばを、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、a は五字、b は十字以上十五字以内のことばとする。

おれが ための場面となるように、 とすること。

問四 傍線部⑤の上原先生のことばは、榊井のどのような姿を言い表したのか。それについて説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを、それぞれ本文中から五字以上十字以内で抜き出して書きなさい。

言いたくなかった貧血という事実を打ち明けてでも、 ためには、最後の競り合いで他のチームに 自分は6区を譲るべきだと主張することで、さわやかでかっこいい自分を演じてしまっている姿。

問五 傍線部⑥における、榊井の様子の説明として適切なものを、次のア〜エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 自分がみんなから孤立していると指摘され、気が動転している。

イ 自分がみんなに尊敬されていると指摘され、照れている。

ウ みんなが自分を敬遠していると指摘され、思い悩んでいる。

エ みんなが自分に遠慮していると指摘され、驚きとまどっている。

問六 本文における、上原先生の言動について説明したものとして適切なものを、次のア〜エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 榊井の真剣な反論に動揺しながらも平静をよそおい、あえて榊井の弱点を突きつけることで気持ち奮立たせて、主将としての責任を果たしてほしいと頼んでいる。

イ 榊井の告白をわざと受け流し、胸のうちを語るように仕向けた上で、榊井自身が気づいていない限界を示し、その限界を自分の力で乗り越えてほしいと願っている。

ウ 榊井の弱音を意外に思い、自信を失ってしまっていることが心配になり、とりとめのない話をしながら榊井の緊張を和らげ、実力を発揮してほしいと望んでいる。

エ 榊井の駆伝にかける熱い思いに共感しつつも、話題を変えて榊井に冷静さを取り戻させた上で、これまでの努力をたたえ、有終の美を飾ってほしいと祈っている。

問七 波線部以降における、榊井の心情の説明として適切なものを、次の

ア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 体調の悪さをおして懸命に走る中で、みんなの信頼を得ることができた実感し、さらに慕われる存在になりたいと感じている。

イ 全力を振り絞って走る中で、能力以上の走りができていることを実感し、県大会に向けてさらに技術面を磨いていこうと考えている。

ウ 自分をさらけ出して走る中で、駅伝にかけるみんなの思いに後押しされていると実感し、その繋がりを手放したくないと感じている。

エ みんなの姿を思い浮かべながら走る中で、落ち着いた走りができていることを実感し、この教訓をみんなと共有したいと考えている。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(鳥羽院が世を治められていた時)

(法勝寺へお出かけなさろうとしたおりに)

鳥羽院の御時、花のさかりに、法勝寺へ御幸ならんとしけるに、執行

(それを知って急いで寺に参上したところ)

なりける人、見てとくまありけるに、庭の上に、所もなく花散りしきたり

(今すぐお出かけがあるとういうのに)

けるを、「あさましき事なり。ただ今御幸のならんずるに、今まで庭を掃

かせざりける。」と叱り、腹立ちて、公文の従儀師を召して、「今まで

(どうして)

(しなかったのだ)

いかに掃除をばせざりけるぞ。ふしぎなり。」と言ひければ、ついひざま

づきて、

(つらい)

(掃くのもつらい) (もの思いをする)

⑥ 散るもうし散りしく庭もはかまうし花に物思ふ春のとのもり

(藤原信実『今物語』)

(注) 御幸——ここでは、院のお出かけのこと。

執行なりける人——寺の運営にかかわる責任者。

公文の従儀師——寺の僧に対して、作法になつた立ち居振る舞い

を指導する人物の補佐役。

とのもり——庭の掃除などに従事する役人。

問一 傍線部①を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問二 傍線部②を説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを、それぞれ書きなさい。ただし、a はあとのア～エから一つ選んでその符号を、b は三字のことばを書きなさい。

「執行なりける人」が、鳥羽院のお出かけがあると知って、b もないほどを気にして急いで寺に参上したところ、庭一面にa 花が散つたままの状態であることに驚きあきれている。

ア 僧たちの自分への評価 イ お迎えの準備の状況

ウ 御幸に関する自分の知識不足 エ 公文の従儀師の評判

問三 傍線部③と⑤の主語の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア ③ 鳥羽院 ⑤ 鳥羽院

イ ③ 鳥羽院 ⑤ 公文の従儀師

ウ ③ 執行なりける人 ⑤ 公文の従儀師

エ ③ 執行なりける人 ⑤ 執行なりける人

問四 傍線部④の本文中の意味として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 気がかりなことだ イ おもしろいことだ

ウ 非常識なことだ エ 当然のことだ

問五 傍線部⑥について、次の問いに答えなさい。

(1) この和歌は、誰が誰に詠んだものか。適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア とのもりが鳥羽院に イ 公文の従儀師が執行なりける人に

ウ 公文の従儀師が鳥羽院に エ 執行なりける人がとのもりに

(2) この和歌に込められた気持ちを述べたものとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 桜の花の散ることはあまりにつらいが、散った花を惜しんで掃かずにいると叱られてもつとつらいので、鳥羽院がいらつしやるまでに庭を掃き清めてしまおうと思うのですよ。

イ 桜の花が散るのがつらい上に、散った花を掃かずにいます。庭が汚れるのはもつとつらいので、あなたに言われるまでもなく鳥羽院がいらつしやるまでに庭を掃こうと思っただけなのですよ。

ウ 桜の花が散ることはもちろんつらいが、散り敷いた花を掃き清める手間がわずらわしくてつらいので、鳥羽院がいらつしやるけれども、庭を掃かずにいるのですよ。

エ 桜の花が散ることもつらいし、せっかく美しく散り敷いた花を掃き清めてしまうのも残念でつらいので、花見にいらつしやる鳥羽院のためにも庭を掃かずにいるのですよ。

四 次の漢文と解説文を読んで、あとの問いに答えなさい。

人主の患は、之に應ずるもの莫きに在り。故に曰はく、「一手独り拍つは、疾しと雖も声無し。」と。人臣の憂ひは、一を得ざるに在り。故に曰はく、「右手に円を画き、左手に方を画くは、兩つながらは成す能はず。」と。

人主之患、在莫之応。故曰、「一手独拍、

雖疾、無声。」人臣之憂、在不得一。故曰、

「右手画円、左手画方、不能成。」

〔韓非「韓非子」〕

(解説文) 君主が心配していることは、何かをやりかけても臣下がだれも応じてこないことである。だから「片手だけで拍手しようとするれば、どれだけ手を強く振つても音など出ない。」と言われている。一方、臣下が心配していることは、君主が臣下に心を一致させてくれないことである。だから「右手で円を描き、同時に左手で四角形を描けば、両方を完成することはできない。」と言われている。

問一 傍線部①は何をたとえたものか。漢文から二字で抜き出して書きなさい。

問二 書き下し文の読み方になるように、傍線部②に返り点をつけなさい。

問三 傍線部③は何と何を指しているか。漢文から抜き出して、それぞれ一字で書きなさい。

問四 解説文にある傍線部④に当たることばを、漢文から一字で抜き出して書きなさい。

問五 本文で表そうとしている内容として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 国がうまく治まるためには、君主は臣下の心をつかもうとし、臣下は君主に心を合わせようとする必要がある。

イ 国がうまく治まるためには、君主は臣下にすべてをまかせ、臣下は自分たちの考えに合うように君主の考えを変えさせる必要がある。

ウ 国がうまく治まるためには、君主は信頼する臣下の意見だけを聞き、臣下は君主に気に入られるようにふるまう必要がある。

エ 国がうまく治まるためには、君主は自分の考えを貫き通し、臣下は君主の考えが自分たちと合わない場合は反対する必要がある。

受検番号 番

平成二十五年 度 兵 庫 県 公 立 高 等 学 校 学 力 検 査

国 語 解 答 用 紙

| | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---|---------|---|---------|---------|-----|------|---|
| 二 点 | | | | | | | | | | | |
| 問七 点 | 問六 点 | 問五 点 | 問四 点 | | 問三 点 | | 問二 点 | 問一 点 | | | |
| | | | b | a | b | a | | ⑦ | ④ | ③ | ① |
| | | | | | | | | (えて) | (し) | (める) | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---|---------|---------|---------|---|---|---|
| 一 点 | | | | | | | | | | | | |
| 問九 点 | 問八 点 | 問七 点 | 問六 点 | 問五 点 | 問四 点 | | 問三 点 | 問二 点 | 問一 点 | | | |
| | | | | | b | a | | | ⑨ | ⑥ | ④ | ① |
| | | | | | | | | | (り) | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------|---------|---------|------------------|---------|
| 四 点 | | | | |
| 問五 点 | 問四 点 | 問三 点 | 問二 点 | 問一 点 |
| | | | 在 _リ | |
| | | | 不 _{ザルニ} | |
| | | | 得 | |
| | | | 一 _ヲ | |

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 三 点 | | | | |
| 問五 点 | 問四 点 | 問三 点 | 問二 点 | 問一 点 |
| (2) | (1) | | b | a |
| | | | | |
| | | | | |

| |
|-----|
| 得 点 |
| |